

第48回全国公立学校事務長研究協議会並びに総会報告

(報告者：事務局長 浦野 俊吾)

1 期日 令和6年8月1日(木)・2日(金)

2 会場 出島メッセ長崎

3 次第

【第1日目】令和6年8月1日(木)

(1) 開会式・功労者表彰

(2) 文部科学省講話

(3) 研究協議

【第2日目】令和6年8月2日(金)

(1) 総会

(2) 本部報告

(3) 研究協議

(4) 講演

(5) 閉会式

4 概要報告

【第1日目】

(1) 開会式

・開会のことば・会長あいさつ

・来賓挨拶(文部科学省・長崎県教育委員会・長崎県公立高等学校長会ほか)



(2) 功労者表彰

・本道からは有朋高校の岩間事務長と札幌視覚支援学校の安住事務長が表彰者に選定されており、安住事務長が全国公立学校事務長会会長より表彰状を授与されており

ます。(岩間事務長は表彰式の方を欠席されております。)

岩間事務長、安住事務長、おつかれさまでした。

(3) 文部科学省講話

ア 「日本の教育における DX 化とその環境整備について」

講師：文部科学省初等中等教育局学校情報基盤・教材課

庶務・助成係長 内田 裕一朗 氏

- ・ GIGA スクール構想の成果と課題
- ・ 改めて、なぜ GIGA スクールなのか、そして、その先へ。
- ・ 活用が「日常化」している学校の様子から
- ・ 校務 DX が求められる背景
- ・ 次世代の校務 DX とは
- ・ 汎用クラウドツールの活用、ペーパーレス化等の状況
- ・ GIGA スクール構想を支えるセキュリティ対策
- ・ 文部科学省の伴走支援
- ・ その他（予算事業等）

イ 「特別支援教育行政の現状について」

講師：文部科学省初等中等教育局特別支援教育課

特別支援教育企画官 酒井 啓至 氏

- ・ 特別支援教育をとりまく現状
- ・ これからの特別支援教育の方向性
- ・ 合理的配慮について
- ・ 最近の動向について
 - ① 通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援
 - ② 特別支援教育を担う教師の専門性向上
 - ③ 医療的ケア児への支援
 - ④ 病気療養児に対する支援（遠隔教育について）
 - ⑤ 特別支援教育における ICT の活用について
 - ⑥ 5 歳児健診／教育と福祉の一層の連携について

(4) 研究協議（Ⅰ・Ⅱ）

ア 研究協議Ⅰ（高校等）

「統括事務室制度」の軌跡

発表者：大分県立大分上野丘高等学校

統括事務長 白木 雅彦

- ・ はじめに

平成 28 年度、大分県に統括事務室制度が導入され、統括事務室 15 校が設置された。県内を 15 ブロックに分け拠点校として統括事務室を新設し、相談

体制の充実及び会計事務相談のため、会計事務に長けた事務長を配置した。

- ・統括事務室の現実

制度当初から「会計事務に長けた事務職員」の配置で、課題等が見受けられた。

- ・会員の意識調査

意識調査の結果、統括校・連携校の組み合わせ再編についての意見や実現していない「会計事務に長けた事務職員」の配置や「効率化のための一部業務の集中化」を当初構想とは違うと指摘する意見等が見受けられた。

- ・意識調査から見える課題

会員から最も多くあがった課題が人的課題である。統括事務室に加配はほとんどなく、標準法の範囲でしか人員が付かない状況であった。

- ・おわりに

令和6年1月末、県教委は統括事務室制度を廃止すると通知した。今後、制度の廃止とともに県立学校事務支援体制が見直され、新たな懸念材料や課題等が見受けられることが想定されている。

イ 研究協議Ⅱ（特別支援）

「統括事務室制度」の軌跡

発表者：長崎県における取り組み事例発表・グループ討議（発表）

- ・はじめに

長崎県の代表者より、これまでの勤務経験から事例紹介

- ①自動販売機設置に関する考察
- ②自動販売機要望
- ③行政財産目的外使用事務取扱要領
- ④自動販売機無償貸与協定書
- ⑤ベンチちらし
- ⑥雁爪伺い
- ⑦雁爪図面
- ⑧グラウンド除草作業写真

※事務職員も積極的に企画に参画し、県教委や企業等との折衝を行い、生徒や教職員等と協同して進めていった話等をお聞きできました。

- ・ワールドカフェ（グループ討議）

特別支援の種別に応じたグループ分け（10人程度）を行い、日ごろの課題等を協議し、グループの代表者が発表した。（学校施設の老朽化、スクールバスの対応、教室不足による工夫など）

☆第48回全国公立学校事務長研究協議会長崎大会懇親会

※全国から250名近い参加者があり、全国の事務長と情報交換等を行いました。

※日本三大祭りの一つとして全国的に有名な「長崎くんち」の奉納踊が披露されました。



【第2日目】

(1) 総会 活動の記録・決算・予算・活動計画・役員改選

※全国公立学校副会長（北海道公立学校会長）鈴木事務長が、議長を担当しました。



(2) 本部報告 各事務長会の活動と課題について報告

(3) 研究協議 (Ⅲ)

長崎県の新たな取組 ～委員会活動（プロジェクトチーム）の立上げ

＜ハラスメント研究院会の活動＞

発表者：長崎県立佐世保中央高等学校

主幹事務長 岡田 明美

・はじめに

長崎県では現在「つながり会い、高め合う事務長会」のテーマのもと活動を展開し、事務長会組織とは別に、委員会活動（プロジェクトチーム）を立ち上げた。その中の活動で、ハラスメント研究委員会メンバーによるパネルディスカッションを行うこととした。

・パネルディスカッションでは、経験年数の違う長崎県の事務長が登壇し、これまでの経験を交えての、様々なハラスメントについての意見が聞かれた。

・近隣に座っている方とハラスメントについてのグループ討議を行った。

（ハラスメントについての様々な事例が意見として出されていた。）

(4) 講演

「夢持ち続け日々精進」

講師：株式会社 A and Live エー アンド ライブ

代表取締役 高田 明 氏

（株式会社ジャパネットたかた 創業者）

(5) 閉会